



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 価格競争ゲーム

このゲームは、価格競争が起こると価格はどのように変化するか、価格競争に参加している企業はどのように行動するかを体感してもらうためのものです。ゲームはケース「特殊混合ガスの価格設定」に似せて、次のような状況を想定します。 5

3~7人程度の集団で行います。参加者が8人以上のときは、複数の集団に分けて下さい。集団の最適な人数は4~6人です。一つの集団が、ゲームでは一つの業界に相当します。集団では一人一人が、それぞれの業界の企業にあたります。 10

各集団(業界)のなかで価格競争を行います。業界は特殊混合ガスの市場で競争を行っていて、各企業は自社製品の価格を決定します。価格が単位コストの80円を超える部分が、企業の利益幅になります。各社の設定する価格にしたがって、各社のシェアが決まり、利益が決まります。シェアと利益は次の方法で決まります。 15

1. まず各社が今回の自社製品の価格を申告して下さい。申告の方法は、各自が紙に書いて提出する方法でも、順番に一人ずつ述べる方法でも、「一斉のせ」で一斉に怒鳴る方法でも、業界の慣習を何でも作って下さい。 20
2. 申告価格の単純平均を計算して下さい。
3. 平均価格とちょうど同じ価格を申告した企業は、ちょうど平均のシェアを得ます。業界が4社の場合なら25%のシェア、5社の場合なら20%、6社の場合なら16.7%になります。申告 25

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 大林厚臣 (2005年作成、2008年1月改訂)